

# 2025年2月議会 総括質問 質疑

(2025年2月19日)

静岡市議会議員

松谷 清

## 3. 一般廃棄物政策について

### <松谷清議員 質問>

静岡市はプラスチック資源循環促進法の成立を踏まえ、プラスチックの焼却から再資源化、新たにプラスチック分別方針を示すなどこれまでのサーマルリサイクル方針を転換し清掃工場でのゴミ処理量削減に向けた取組を始めています。

#### (1)ゼロウェイストの考え方について

静岡市の家庭ごみの削減目標と現状の評価はどうなっているのか。またゴミ政策の理念となるゼロウェイスト、＝脱焼却・脱埋立て・ごみゼロについてどう考えるか。

### <環境局長 答弁>

○静岡市の家庭ごみの削減目標と現状の評価について

- ・静岡市一般廃棄物処理基本計画では、家庭ごみの削減目標の指標として、基準年度である令和元年度の「一人1日当たりの家庭ごみ総排出量」661gを、12年度までに549g以下とする目標を掲げている。
- ・令和5年度の実績は596gとなっており、市民の皆さんの御協力もあり順調に削減できていると評価している。

○ゼロウェイストの考え方について

- ・静岡市では、ごみ減量の方針として、発生を抑制する「リフューズ」、排出を抑制する「リデュース」、再使用の「リユース」、再生利用の「リサイクル」の「4Rの推進」を掲げ、なかでも、すぐにごみになるものは買わない、もらわないなど、ごみの発生を抑制する「リフューズ」に重点を置き、市民の行動変容を促す取組に力を入れている。
- ・この静岡市の方針は、無駄や浪費をなくし、ごみを出さないという「ゼロウェイスト」に合致するものと考えている。

## ＜松谷清議員 質問＞

### ①他市の一般廃棄物の受入れについて

2025年度予算に掛川市及び菊川市両市の一般廃棄物の受託事業収入として1年間9000t、2億2152万を計上しています。しかも5年間の継続、4万5000トンの受入れとなります。掛川市及び菊川市の一般廃棄物を受け入れることになった経緯は何か。

## ＜環境局長 答弁＞

- ・掛川市と菊川市の両市で構成している「掛川市・菊川市衛生施設組合」が運営する清掃工場では、近年、故障が相次ぎ修繕対応が限界となったため、工場の建て替えが余儀なくされ、その間のごみ処理について、静岡市のほか、周辺自治体に対し協力依頼があったもの。
- ・静岡市としては、沼上、西ヶ谷の両清掃工場の処理能力の範囲内であれば受入れが可能であることと、県内自治体の相互協力の観点から、受入れを承諾し協定を締結した。

## ＜松谷清議員 意見・要望＞

議会にも知らせなかった、というか私は菊川市の市民グループから指摘されました。